

## 「世界難民の日」に関連した発言

6月20日は「世界難民の日」です。世界では迫害や紛争から逃れ、国際的な保護を求めている人が1億  
June 20 is World Refugee Day.<sup>1</sup> Around the world, people are fleeing persecution  
and conflict

2000万人を超えました。難民たちをいかに救うかということは、日本をはじめ国際社会全体の喫緊の課題と  
and seeking international protection, and such individuals now number more than 120 million.<sup>2</sup> Addressing  
how to help refugees

なっています。難民とは、人種、宗教、国籍、政治的意見、または特定の社会的集団への所属に基づく迫  
is an urgent issue for the international community, including Japan. Regarding who refugees are,<sup>3</sup> the  
definition refers to

害、暴力、または抑圧を受けるおそれがあるため、国外に逃れた人々です。国内にとどまりながら住む家を奪わ  
race, religion, nationality, political opinion, and membership in a particular social group and speaks of fear of  
persecution, violence, or oppression that has forced them to flee their own countries.<sup>4</sup>

れた人々は国内避難民と呼ばれます。

Those displaced but remaining within their own countries are referred to as internally  
displaced persons.

現在、世界には約3760万人の難民がいます。アフガニスタンが640万人と最も多く、シリア、ウクライナ、パ  
Currently, there are approximately 37.6 million refugees  
worldwide.

レスチナがそれぞれ約600万人です。さらに、37か国に約6830万人の国内避難民がおり、そのうちスーダ  
Afghanistan has produced 6.4 million refugees -- the largest number -- followed by Syria, Ukraine, and  
Palestine, each with around 6 million.

ンだけで910万人、シリアは約700万人と推定されています。

In addition,<sup>5</sup> there are about 68.3 million internally displaced persons in 37 countries, with Sudan alone  
accounting for 9.1 million

「世界難民の日」は2000年に制定されました。過去24年間で、難民と国内避難民の数は3倍以上に増  
and Syria close behind with around 7 million.<sup>6</sup> World Refugee Day was established in 2000.

加しました。これは、アフガニスタン、ウクライナ、シリア、ミャンマー、パレスチナなどにおける継続的な紛争により、  
Over the past 24 years, the number of refugees and internally displaced persons has more than tripled.

何百万人もの人々が避難を余儀なくされているためです。

This is due to the fact that<sup>7</sup> Afghanistan, Ukraine, Syria, Myanmar, Palestine, and so on have experienced  
conflict,<sup>8</sup>

難民の4分の3は低所得国または中所得国に避難しており、先進国が保護している難民は全体の2割程  
which has forced millions to flee. Three-quarters of refugees find refuge in low- and middle-  
income countries,

度にすぎません。国連は引き続き、責任を公平に共有するよう国際社会に呼びかけています。しかし、特にヨー  
while only about 20% are hosted by developed countries. The United Nations continues

ロッパでは、難民の受け入れに反対する極右勢力の支持が高まり、抵抗が続いています。中東やアフリカなどの  
to call for equitable sharing of responsibilities globally. However, Europe, in particular, has seen far-right  
movements opposed to refugee acceptance gaining support,<sup>9</sup>

地域の国々が不釣り合いに大きな負担を負うことは、これらの地域を不安定化させるリスクがあり、日本を含む  
and resistance is continuing. Countries in regions like the Middle East and Africa

先進国がより大きな責任を負う必要があるでしょう。

are bearing a disproportionate burden, which runs the risk of destabilizing these regions.<sup>10</sup> Developed nations  
including Japan need to take on greater responsibility.

---

### 訳注

1. 別の訳し方としては、「June 20 marks World Refugee Day」や「June 20 is designated as World Refugee Day」等があります。

2. 逐次通訳であれば、「... the number of such individuals has now exceeded 120 million」などの、より自然な英語のほうが良いと思います。しかし、ここでは同時通訳として順送り訳（頭ごなし訳）方式で訳していて、このような英語になっています。

3. 原文が「難民とは、人種、宗教、国籍、政治的意見、または特定の」という部分まで進んできたときに、これは、難民の定義を説明するやや長めのセンテンスであるように感じたので、まず「難民とは」を話題を提示する要素として訳出し、その後は文の展開に合わせて順送り訳をしていくという手法をとっています。こういった話題を示す表現に関しては[こちら](#)をご覧ください。

4. こういった、言葉の定義を述べる文は通訳が大変難しい場合があります。この部分も、同時通訳は困難です。上の註3にあるように、順送り訳に徹して、訳出しています。仮に同時通訳ではなく逐次通訳でしたら、例えば「Refugees are people who have fled their own countries for fear of persecution, violence, or oppression based on race, religion, nationality, political opinion, or membership in a particular social group」などというように訳しておけばよいでしょう。

5. 「さらに」という表現は、実際のところどういう意味を表しているのかを文脈から判断して適切な訳語を使います。場合によっては、「Moreover」や「Furthermore」等の表現のほうが良いのかもしれませんが、意味の流れ次第では、別の表現のほうがふさわしいのかもしれない。様々な類似表現を使えるようにしておきたいものです。いくつか挙げますと、「Also」、「Additionally」、「What's more」、「To compound the situation」等です。

6. 今回の原文にも大きな数字が含まれています。こういった大きな数字を訳すことに慣れていないと、通訳をするときに困ることにもなりかねません。普段から、練習しておくのが賢明です。より詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

7. ここは、本当は「This is because」や「The reason is」などの短い表現のほうが良いのですが、原文がどのように展開するのかわかづきながら訳しているので、英訳をどのように進めようかと考えつつ、沈黙を避けるために、何らかの訳を出すために、「This is due to the fact that」という冗長な語句を使っています。

8. 順送り訳をするために、「アフガニスタン、ウクライナ、シリア」等の国名を最初に訳出しており、必然的に「紛争」が目的語という文構造になります。そこで、この主語と目的語をうまくつなぐ動詞をどうするかということになり、「experienced」を使っているのです。別の可能な動詞としては「seen」等があります。

9. 上の註8と同様に、頭ごなしに訳していることから、「Europe」を主語にしています。述語は「極右勢力の支持が高まり」です。主語と述語をつなぐ動詞として、この部分の訳では「seen」を使っています。

10. 原文では「中東やアフリカなどの地域の国々が不釣り合いに大きな負担を負うことは」が主語ですが、非常に長いので、順送りに訳出をしていきたいので、まず、この語句を主語・述語からなる文として訳しておいて、次の「これらの地域を不安定化させるリスクがあり」は「which ...」という関係節を用いて処理しています。こういった工夫に関しては[こちら](#)で扱っています。